

蔵王山監視カメラの移設検討について（情報共有）

◆経緯

蔵王山御釜北監視カメラは、蔵王山の水蒸気噴火の兆候をより早期に把握するため、気象庁で2015年（平成27年）に設置した。

しかしながら、冬季の雪害によりたびたびカメラの破損が発生するとともに、しだいに支柱の湾曲が進行してきた。

このことから、比較的積雪の少ない場所への、当該観測施設の移設を検討してきた。

◆今後の予定

通信や特に冬季の電源の安定供給が見込まれることから、東北地方整備局のインフラを利用して頂き、東北地方整備局カメラの近隣に気象庁カメラ（赤外熱映像装置）の移設を予定している。

これにより、冬季でも安定して観測・通信が行えるようになり、監視体制の大幅な強化につながる。

関係機関と調整のうえ、令和6年度完了を目標に移設作業を進める予定。

現在の設置位置関係



移設を検討している気象庁「御釜北」カメラ

東北地方整備局整備の「蔵王山御釜」カメラ

蔵王山「御釜北」監視カメラ移設検討の経緯

冬季の雪害によりたびたびカメラの破損が発生、及び支柱の湾曲が進行
比較的積雪の少ない場所への移設を検討してきた

蔵王山 御釜北支柱の傾き (2015年-2023年)



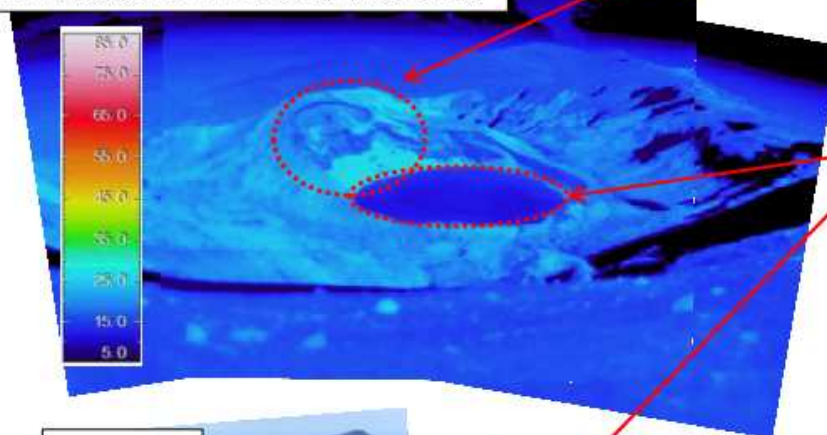
御釜の湖面状況がよくわかり、冬季の積雪が少ない等の条件で移設先を検討
・気象庁「御釜北」カメラには、可視のほか赤外熱映像装置も搭載されている
(東北地方整備局で整備したカメラは可視画像のみ)

蔵王山火口カメラによる監視ポイントと目的

【目的】

蔵王山の水蒸気噴火の兆候をより早期に把握するため、小さな変化を見逃さないことを目的とする。

赤外熱映像装置による地表面温度分布画像



☆五色岳壁面の地熱状況がよくわかる
→地熱異常域の有無を常に把握

☆御釜の湖面状況がよくわかる
→御釜の変色、沸騰、
湖面温度上昇等の異常の把握

☆御釜の火口壁が崩れて
越流していないかがよくわかる
→濁川や丸山沢・振子沢方面への
越流(御釜由来の泥流)発生有無
の早期把握

可視画像



馬の背登山道沿いから御釜を撮影
(2017.6.9現地観測時に撮影)

東北地方整備局が電源・通信のインフラを整備して設置したカメラ付近に設置しインフラを利用させていただくことを東北地方整備局に相談、了承いただいた。インフラの利用により、冬季でも安定した観測・通信が行えるようになり、監視体制の強化につながることから、移設先として適していると判断。関係機関と調整を行い、令和6年度完了を目標に移設作業を進める予定。

